

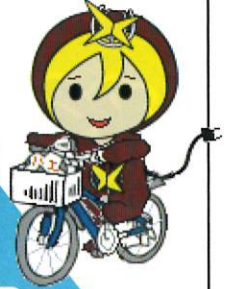
# ココが自転車のイイところ!!

- ①環境に優しい (排ガスを出さない)
- ②健康にいい (よい持久運動・メタボ予防)
- ③観光にいい  
(スピードが出ない分、ゆっくり景色を見る、立ち止まっているいろんな店に立ち寄り。地域の人とも交流をしやすい。その結果、滋賀を好きになる確率が高くなる。リピーターも増え、地域産業も潤う)



土井夏海さん (1-5) ↑  
愛車のピアンキちゃん (ミニベロ  
小さなロードバイクのような  
自転車です)

## 車特集 第6弾 vol.2 自転車編



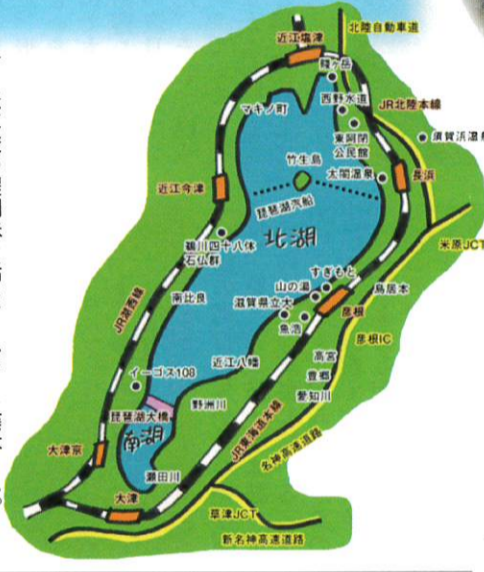
# 高ボ 校ク 生

# ドライブをきっかけに 自転車好きを増やしたい

「みんな、もっと自転車に乗ろう!といっても、そうそう乗らないよね。ここは滋賀。びわ湖がある。びわ湖一周走ってみよう。それをきっかけに、普段も乗ってもらおう」とピワイチの推進を始めた経緯を語る、輪の国びわ湖推進協議会会長 藤本芳一さんにお話を伺った。



↑自転車旅の醍醐味を話してください藤本さん。



### 藤本 芳一さん

(ふじもと よしかず) (53才)

輪の国びわ湖推進協議会会長自ら「自転車好き人間」と語る藤本さん。日本全都府県はもちろんで、世界約50か国を自転車で巡った。兵庫県出身、現在は滋賀県大津市在住で、印刷物などを手掛けるフリーランスのデザイナー。

藤本さん自身が自転車にのめり込んだのは、就職して間もない24歳の頃。「人と違うことがしたい」と、15万円のロードバイクを手に入れた。それまでの藤本さんは、高校・大学で自転車通学をしていたため、「けっこう遠くまで行けるだろう」と軽い気持ちでサイクリングを始めた。初めての自転車旅は、9日間に及ぶ福島県・会津若松までの旅。そこで「予想外に起こるハプニング」に数々出会った。「大変だけど、面白い」と感じた。ドキドキで楽しい毎日が始まった。美しい景色に囲まれ、

「自転車の楽しさを、少しでも多くの人に伝えたい。そして自転車をもっと多くの人に楽しんでもらいたい。ひいては、自転車で走りやすい街にしたいのが目標」と語る藤本さんに、「すげー」と感動を覚えた、八工新聞部記者3名(星・貴・海)であった。

「自分がまるでドラマの中に入っているみたいだった」と、自転車旅のとりこになった藤本さん。その後、アジア圏、欧州、アフリカ、南米などを自転車で走破する。思い出深いのは、チベットの標高5040mの空気の薄い地帯を走る。体力を奪われ、辛くてペダルを漕ぐこともできなくなった。自転車を押し歩いて歩く。最終、車での下山を余儀なくされたが、そんな辛いエピソードさえも、楽しんでおられる強者だ。

滋賀県の日常生活も、車は持たない。「滋賀は琵琶湖の周囲をぐるっと電車が走っている。折りたたみ自転車を持って電車に乗って、そこからどこへでも行ける」と語る。



↑布施宗一郎くん (3-4)  
2014年モデルのロードバイクで、頑張って貯金をして買った自慢の愛車です!かなりスピードも出て飛ばせるのでツーリングには欠かせない大切な1台です。



↑今年4月から5月にかけて、イランを自転車で巡った藤本さん。

### 輪の国びわ湖推進協議会とは

2009年発足。市民のボランティアを中心に活動。ピワイチをきっかけに自転車好きを増やしたい、自転車に優しいまちづくりをしたいという願いから作られた団体だ。行政・企業とも協力し、ガイドブックの発行やピワイチのPRに努めている。

### ピワイチってなあに?

自転車で、びわ湖一周すること。自転車は、車道の左側走行なので、琵琶湖を反時計周りに走るのが、湖岸に近く景色も楽しめ、交差も少なく安全面でもおススメだ。ぐるっと一周コースは193km。琵琶湖大橋以北の北湖コースは約150km、琵琶湖大橋以南の南湖コースは約50km。ピワイチをした年間人数は、2015年度5万2000人、2016年度7万5000人、2017年度9万5000人と右肩上がり(滋賀県発表)

### 新聞部新入部員募集中!

156号のよし笛サイクリングに続き、琵琶湖大橋縦断サイクリングを企画中です。新聞部は現在3年生5名、1年生1名で活動中!ぜひとも欲しい新入部員!来たれ新聞部!車好き、サイクリング好き、カメラ好き、パソコン好き、文章好き、首つっこみたがり...いろんな個性受付中です!  
**2年生も大歓迎!**